

会 議 録

会議の名称	平成29年度 第3回西東京市健康づくり推進協議会
開催日時	平成29年9月15日（金） 午後1時30分から
開催場所	保谷保健福祉総合センター 3階 機能訓練室
出席者	石田会長、永田委員、浅野委員、井出委員、梅田委員、筒井委員、桑原委員、池田委員、前田委員、横山委員、谷戸委員、本名委員
議 題	(1) 西東京市健康づくり推進プラン後期計画の策定について
会議資料の名称	資料1 西東京市健康づくり推進プラン後期計画（健康都市プログラム）策定に向けた中間報告（素案） 資料2 西東京市健康づくり推進プラン後期計画（健康都市プログラム）策定に向けた中間報告（案）参考 データ集
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
<p>1 開会 2 議題 (1) 西東京市健康づくり推進プラン後期計画の策定について 事務局より配布資料の説明 事務局より西東京市健康づくり推進プラン後期計画（健康都市プログラム）策定に向けた中間報告（素案）及び参考 データ集の説明</p> <p>●会長 事務局からの説明について、まずは委員の皆さまから質問やご意見をうかがいたい。 健康づくり推進プランとして様々な基本計画の理念や総合目標があるが、それらに食育計画を追加し、新しく後期計画（健康都市プログラム）を策定する。推進プラン自体の基本理念と整合性を持たせる必要がある。</p> <p>●事務局 第2次健康づくり推進プランは、平成25年度から10か年の計画である（平成35年度まで1年間の延伸をすでに決定している。計画期間 平成25年度－35年度）。 計画期間の中間期を迎えたことから後期計画（健康都市プログラム）を策定する。 この計画は、後期計画期間において推進プランの総合目標を達成するためのアクションプランとしての意味合いを持たせたい。</p> <p>●会長 10年計画の総合目標を達成するために、後期期間をさらにうまくやっっていこうということで、今までできなかったことを加えるということだが、総合目標自体はあまり変えないほうがよいのではないか。新項目や改善点を付け加えるのはよいが、総合目標を新しくすると、違うものができる気がする。それは重要視したほうがよいのではないか。</p> <p>●事務局 資料「西東京市健康づくり推進プラン後期計画（健康都市プログラム）策定に向けた中間報告</p>	

(素案)」に挙げている3つの総合目標は、いずれも現プランの総合目標である。

●会長

もともとは4項目ではなかったか。

●事務局

提示していないものは、「健康な家族の形成を支援する」という項目である。

3番目の「子どもが健やかに育つこと」と統合してはどうかと考えた。

●会長

これまでの総合目標を検証していく必要はあるが、最初の目標から議論すると意味がなくなるのではないか。食育推進計画を統合すること自体はよいが、最も大きな問題は、「健康」応援都市を作るといった概念をどう入れるか。総合目標自体は、大きく変わらないと思うが、後期計画（健康都市プログラム）をどう作るか議論しないとイケない。

●委員

総合目標が変わるものと理解してしまうので、目標項目を統合するのは慎重にしたほうが良い。

●会長

健康づくり推進プランは、このまま市民に提示しても恐らくよく分からないだろう。

提示する際には、概要版等で分かりやすい言葉で市民に周知する必要がある。

健康づくり推進プランの計画前期を終えようとする中で、改善すべき点を抽出する作業が必要だが、大元との目標はあまり変えないほうがよいと思う。ただし、別の目標ができるならそれを付け加えてもよい。

●委員

総合計画策定に携わったことがあるが、総合目標というのは、基本理念、まちづくりにあたるものであり、社会経済情勢が大きく変わらない限り変わらないはずだ。ただし状況やアプローチの仕方が変わってくれば、次の段階や他の形で加えるのがよいのではないか。突然、意味もなく1つ消えると、なぜ消えたのかという話になる。よほどの理由がなければ、次のところで書き込むか、新たな方向性を加えるほうが分かりやすい。

●事務局

現行のプランは、平成24年度に策定し、翌年度から計画期間がスタートした。

これまでの間、西東京市は、健康都市連合に加盟し、また、平成28年3月に策定した「西東京市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、「健康」応援都市を基軸に据えることとしている。

現在、西東京市は、「健康」を一つのキーワードにした政策実現を図ろうとしている。

これは、単に公衆衛生や福祉を中心とした施策だけではなく、「まちの健康」をも考えたいということである。

●会長

施策の効果は、ある程度の年月が経たないと分からない。ある程度、具体的に述べていかないと、これまでの推進プランと食育推進計画が合体しただけになる。

市民ができることは限られている。理想だけ出されても不可能だ。

データを見ると、出生率の低下もあるが、30歳代女性の健康感も損なわれているように考える。

そこはまちづくりとして、子育て世代を大事にするといったような基本的な対策が必要だ。それは後期計画（健康都市プログラム）の中に入れるべきではないか。

●委員

理念は理解できたが、健康都市実現のために、それをどのように目指すのか、議論できればよいのではないか。

●事務局

現行の推進プランには、総合目標のほかにも、成果目標における指標がある。

前期計画期間において、達成状況が特に不十分なものを、後期期間において改善できるよう、その内容を後期計画（健康都市プログラム）に盛り込んでいきたい。

●会長

未達成の目標を今度の後期計画（健康都市プログラム）にどう入れるか整理すればよいのではないか。一般の市民に、どのように取り組んでもらうのか、その工夫がなければ計画にならない。

●委員

一般の市民が実際に踏み切れるような計画の仕方を考えていくと、難しいことではなく身近なことから入ってはどうか。それを行政側、委員の皆さんからの意見を出し、広げていくという方法を取ってはどうかと思う。

●委員

健康都市連合に加盟したことは大きなことで、今後健康づくりを議論する上で、どこを最重要視していくということか。

●事務局

これは、従来の公衆衛生や福祉といった分野だけではなく、市の施策全体を健康とつながりを持たせたいという大きな目標がある。健康を意識しながら政策を策定していきたいという思いがあり、その要素は入れたい。しかし、健康づくり推進プラン全体の枠を超えてまで、書き込むことは、市全体の計画体系から難しいが、いわゆる健康都市連合加盟自治体として、他の加盟自治体同様に、西東京市でいえば、今後策定する第2次健康づくり推進プランの後期計画を「健康都市プログラム」として、「健康」応援都市実現のためのアクションプランとしていきたい。

●委員

今後ディスカッションしていく際には、これまでの前期期間における、様々な指標項目の達成状況における課題の議論と、今回の「健康」応援都市実現のための議論は少し分けないと、分かりにくくなると思う。

●委員

健康は日々の積み重ねで、急に健康にはなれない。「西東京市で健康に生活できるためには」と考えた上でのプラン策定だ。対象がありすぎて難しいが、データから見ると若い世代を重点的にプラン策定の中で考えたほうが良いと思う。

●委員

小平市では、「こだはぐ子育て応援カード」がある（平成29年3月末にて終了）。これは協力団体があり、妊娠中や未就学児の子どもがいる人が加入店舗でこのカードを提示するとサービスを受けられるものである。ここでの議論はこういった具体的な話をしたほうがよいのか、もっと大きなテーマだけの話なのか。

●事務局

計画の内容を見ていただく中で、お話しいただいたような具体的なものがあつたほうがよいといった点は、今後の議論で出していただくとありがたい。

●会長

健康づくり推進プランの大元の目標として、成果目標、市民の行動目標、行政の施策目標の3つがあるが、行政の具体的な取組みが見えないと意味がない。

●委員

これから策定する後期計画は、次の計画（第3次）には、どのようにつなげていくのか。

●事務局

第3次計画の計画開始期間は、平成36年度からとなる見込みである。

第2次健康づくり推進プラン後期計画（健康都市プログラム）は、それまでの間のアクションプランと捉えている。

●委員

後期計画は、例えば「第2次健康づくり推進プランの改定案」など、分かりやすくしたほうが良い。健康都市プログラムという新たな名称を作ると目標が変わったのかと、見るほうも混乱するので、名称からしっかり考えたほうがよい。

●会長

新しいことも入れてよいが、目標達成のためにはどうするかを第一に考え、最初の目標を見失わないようにしなければならない。

当初は目標を達成するために10年間を取り組もうという計画だったが、世代や社会情勢の変化もあり、修正は必要だ。ほとんどの分野で未達成なので、改善点を重点的に付け加えなければならない。

ただ、達成は確かに難しい。多くのことをやりすぎると達成できないので、後期は重点項目を絞って、チャレンジすることが必要だろう。西東京市で重点的に取り組むことを議論して絞り込みしたほうが、今後の5年間で効果があると思う。

●委員

計画期間は10年あるが、後期5年で取り組む具体的な計画を今回立てるならば、この10年計画には様々な指標があるので、新たな理念が出てきている部分の盛り込み方も必要だが、中間評価で達成状況を見た上で、未達成部分について後期は重点的にやるという計画になるのではないか。そのように進めていくほうが分かりやすいと思う。

●委員

目標は今のところ全部は達成できていないが、未達成目標について、いかに目標に近づけていくかという具体的な話をしたほうがよいと思う。

●委員

フレイル（虚弱）予防を含め、新しい医学的な概念も広まっており、今後取り上げていくべきである。

●事務局

例えば10年計画に20のメニューがあったとして、20の中での課題が7つあるとすれば、その7つをプッシュする内容が後期計画に示せるとよいと思っている。その7つに関し市民の行動変容を促したいと考えている。後期計画を西東京市の健康都市プログラムと呼び、それを一緒にやっていこうと訴えていきたい。

●会長

それでいいと思う。今まで検証した中で、達成しており必要ないものは削っていい。未達成のものを重点的に取り組まないと、また同じデータになってしまう。またフレイルを入れると健康寿命が延びる可能性があるので、新しい計画に入れられるとよい。従って、総合目標は一緒だと思う。

●委員

フレイルは新しい予防対策として、近々高齢者支援課で取り組むようだ。素案に高齢者の社会参加は掲載していないのか。フレイルや社会参加など、時代の流れを汲んで、取り上げてほしい。

●事務局

基本理念の「～「健康」でつながる丸ごとまちづくり～」に、健康というテーマを1つのきっかけにして人が寄り添う、人が集まるなどの仕掛けを行政として提供する必要があり、文章として表現した。フレイル予防も虚弱を心配している人が集まるが、住民同士が支え合う場を提供するのが行政ということで示したものだ。健康づくり推進プランでは当時はそこまではなかったが、「健康」応援都市の実現、お互いが支え合うという意味で応援という言葉を使っている。そこは意識的に新たに加えたい。

●会長

西東京市の新しい概念としてフレイル予防を重点的に取り組むことを表に出せばいい。社会的フレイルもあり、重点的にやるのは賛成だ。

フレイルを重点的に取り組むことを付け加えることは賛成で、健康寿命の延伸にもなると期待している。アピールするために名前を変えたりするのは構わないのかもしれないが、目標は一緒だと思う。必要なものと重点的なもの、不要なものに分けて後期計画に出せばいい。

●委員

プログラムという表現だが、同格ではないのでプランからプログラムには置き換わらないと思う。プログラムは具体的なもので、後期プランは後期プランだ。それに実行性や、具体的なもの、ロードマップ的な新しい要素を入れるなどをした上で、プログラムとして位置付けるならいい。そうしないと計画の構成として前期と後期のつながりが分からなくなるので、あくまでも後期プランだと思う。アプローチの仕方として、プログラムの内容で実行性を高めていくという位置づけで名前を付けたのなら、説明は分かりやすい。

●会長

改善点を出さないと後期計画にならないので、その議論がもう少し必要だ。時間的に厳しいが、意見を出してもらったほうがよいだろう。

●委員

ポイントを絞らないと議論が空回りする。どういう行動を行政と市民ができるか、そのためには何をすればいいのかを出し合い、良し悪しを話し合うほうが具体的にできるのではないか。

●会長

アイデアが出てこないと具体的に進まない。アイデアを集積し後期計画に掲載する。行政の考えもあるので、最終的にまとめていく。

本日の中間報告（素案）を、改めて委員から意見をいただいた上で、整理させていただきたい。

3 その他

(1) 次回のスケジュールについて

次回：10月（日程未定）／場所未定

4 閉会